
夢の罨

真悠子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の罫

【Nコード】

N2745B

【作者名】

真悠子

【あらすじ】

男はいつしか、夢と現実の区別がつかなくなり、とんでもない事態を招く。

(前書き)

一つ一つの文を、見逃さずに御覧下さい。

僕は夢を見て、恐怖や驚きを感じた事は無い。

何故なら僕は、昔から今自分が夢を見ているということが分かるからだ。

夢だと分かっていたいれば、例えば崖から墜落しようが、腹が立つ奴をめちゃくちゃに殴ろうが、僕には何の被害も無い。

だから僕は昔から、夢をストレス解消の道具としていた。

最近、人を殺す夢が多い。

今日は、友人のAを殺す夢。

まあ、夢なのだから。

僕はAの心臓を、その時持っていた果物ナイフで一刺した。

今日も、友人を殺す夢。

今日は仲があまり良くないKを殺す夢。

まあ、夢なのだから。

そして僕は、その時持っていた昨日と同じ果物ナイフで、Kの心臓を一刺した。

どれもこれも、全部夢。

ああ、夢の中は自由でいいなあ。

そう考えながら林檎を剥いていた。

あれ。この果物ナイフ、見覚えあるけど。まあいつか。

そう思っていると、テレビのニュースが始まった。

『今月に入って次々と続いていた連続殺人の犯人の身元が遂に確認出来ました。只今より警察が取り押さえに向かう模様です。』

へえ、良かったじゃん。

僕は林檎を頬張りながら、事件が解決することに安心していた。

近くで、パトカーの音が聞こえた。

あれ。犯人がこの近くだったたりして。

物凄い数の、足跡が聞こえた。

あれ。犯人と同じアパートの住人だったたりして。

僕は笑いながら色々と想像していた。

『ドンドンドンー!!』

僕の部屋の戸が激しく叩かれた。

誰だよまったく。

僕は黙って扉を開けた。

『。。。さんですね。警察のものです。貴方を連続殺人犯として逮捕します。ナイフにも、貴方の指紋がしっかりとついていたのでですよ。』

また夢か。

夢だからすぐ覚めるよな。

また今日は随分とリアルな夢を見たもんだ。

ああ。まだ覚めないのか。

でもいいか。

このまま夢の世界にずっといたい。

夢の世界は、何をやってたって許されるんだからな。

それから5年が過ぎた。
僕の夢は、未だに覚めていない。

（後書き）

読んで下さり有難う御在ました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2745b/>

夢の罌

2010年12月12日02時12分発行